

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めることがあります。
公告方法	電子公告 (https://ncsa.jp)
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第二部
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物の送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)
インターネット	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、お取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

第54期定時株主総会の決議結果について

2020年6月19日開催の当社株主総会において報告及び決議された内容につきましては、当社ウェブサイト (<https://ncsa.jp/ir/shareholder.html>) に掲載していますので、ご参照ください。

■ ホームページのご案内

ホームページで当社の事業活動、サービス案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧いただけます。ぜひご活用ください。



<https://ncsa.jp>



株主の皆様には、平素より格別のお引き立てとご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の連結の業績と取り組みの状況をご報告申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策への対応につきまして、当社グループでは、日々変化する状況に応じて、お客様、ビジネスパートナー、社員およびその家族の安全確保、感染予防、感染拡大防止を最優先する方針のもと、社会インフラを担う企業の一端として事業継続に向けた対応を随時実施しております。

代表取締役社長 **辻 隆博**

CONTENTS

トップメッセージ	P.01
中期経営計画の進捗	P.06
トピックス	P.07
連結財務諸表 要約	P.09
会社の概況/株式の概況	P.10

新たな技術に果敢に挑戦しながら、
しなやかな発想で
価値あるITサービスを提供し続ける
企業へ

**Grow on with Clients,
now and forever**

- **Q** 当期（2020年3月期）の経営環境と取り組みについて説明してください。
- **A** 市場環境の緩やかな改善が続く中、積極的な投資、受注活動を推進しました。

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益が製造業を中心に弱含んでいるものの概ね高い水準で推移し、雇用・所得環境にも改善が見られるなど、緩やかな回復が続きました。一方、米中の通商問題、イギリスのEU離脱といった不安定な国際情勢や相次ぐ自然災害の発生に加えて、新型コロナウイルスの感染の拡がりが見え、収束時期が見えず、先行き不透明な状況が一段と強まりました。

当社グループが属する情報サービス産業におきましては、AI、IoT、ビッグデータ、RPA（ロボティックプロセスオートメーション）等の技術を利用して、新しい製品やサービス、新しいビジネスモデルを通じて価値を創造し、競争上の優位性を確立する「デジタルトランスフォーメーション（DX）」

第54期連結業績

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
224.8億 百万円	8.96億 百万円	10.14億 百万円	11.33億 百万円
〔前期比19億51百万円増収〕	〔前期比2億8百万円改善〕	〔前期比2億22百万円改善〕	〔前期比5億60百万円改善〕

に関するIT投資や、コンプライアンス対策、法令対応を目的としたIT投資、「働き方改革」の実現に向け業務効率化を目的としたIT投資等、国内企業のIT活用は多様化しており、市場環境は緩やかな改善が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、「主力ソリューションの商品力強化」及び「営業力の強化」を両輪とした「トップライン（売上）の拡大」を基本方針とし、安定した収益基盤の確立に向け、積極的な投資及び積極的な受注活動を推進いたしました。

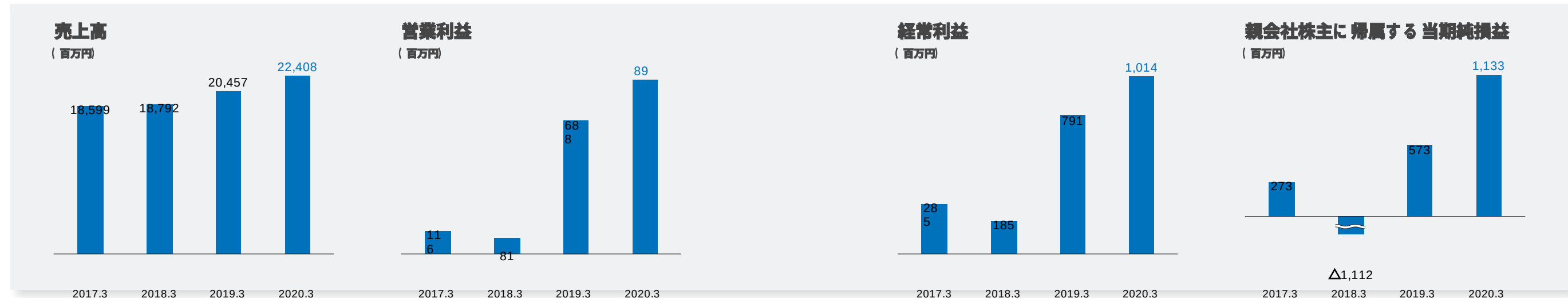
- **Q** 当期（2020年3月期）の成果を聞かせてください。
- **A** 主力ソリューションを中心に業績拡大するとともに新たな投資や協業先の開拓に努めました。

基幹システムの導入を得意とするホテルシステム事業につきましては、インバウンド旅行者の増加を背景とした新設ホテルの開業が続く中、積極的な受注活動を推進し、売上、利益ともに引き続き堅調に推移いたしました。また、2019年10月より実施の消費税の軽減税

率制度へのシステム対応案件が、ホテルシステム事業、外食システム事業を中心に増加いたしました。

経済産業省が警鐘を鳴らしている「2025年の崖」問題（老朽化・肥大化・複雑化及びブラックボックス化した既存システムがDX推進の足かせとなり、ひいては国際競争への遅れや経済停滞に繋がる）に関連し、自社開発製品であるシステムの可視化ソリューション「REVERSE PLANET（リバースプラネット）」につきましては、システムの可視化に対する顧客ニーズの高まりを追い風に、既存顧客の深耕やアライアンス先との協業による導入ユーザー数の拡大に努め、売上が伸びました。また、「AAA（トリプルエー）」、「AIRS（エアーズ）」といった自社開発ツールを活用したマイグレーションサービスにつきましては、今後の事業拡大を見据え、ツール強化のための投資や販路の拡大に努めました。

システム機器等販売につきましては、Windows7のサポート終了に伴うパソコン及びサーバ機器の更新需要を積極的に取り込んだ結果、売上が大きく増加



いたしました。

- **Q** ■ 業績について説明してください。
- **A** ■ 売上、利益ともに順調に推移しました。

当連結会計年度の売上高は前期に比べ19億51百万円(9.5%)増収の224億8百万円となりました。

売上を拡大させる一方で、開発プロジェクトの損失を最小限に抑えるべく、PMO(プロジェクトマネジメントオフィス)が現場に一步踏み込んで課題を共有し、現場とともに課題解決にあたりました。

この結果、利益面につきましては、増収に伴う売上総利益の増加により営業利益は前期に比べ2億8百万

円改善の8億96百万円、経常利益は前期に比べ2億22百万円改善の10億14百万円となりました。また、第1四半期において、顧客都合による保守契約の途中解約により発生した違約金1億55百万円を特別利益に計上したこと、及び当社の近年の業績動向等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、回収可能性のある部分について繰延税金資産を追加計上することとし、これに伴い法人税等調整額△3億42百万円(△は益)を計上したことから親会社株主に帰属する当期純利益は前期に比べ5億60百万円改善の11億33百万円となりました。

- **Q** ■ 2021年3月期の取り組みについて聞かせてください。
- **A** ■ 「アフターコロナ」の時代を見据え、持続的な成長に取り組みます。

わが国の経済は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い実体経済に深刻な影響が広がっており、先行きが非常に不透明な状況となっております。

当社グループの新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、すでに社長直轄の「新型コロナウイルス感染症対策本部」を立ち上げ、日々変化する状況に応じて、顧客、ビジネスパートナー、社員及びその家族の安全確保・感染予防、感染拡大防止を最優先する方針のもと、社会インフラを担う企業の一端とし

て事業継続に向けた対策を随時実施しており、今後もこれを継続してまいります。

また、これに並行して、いわゆる「アフターコロナ」の時代を見据え、持続的な成長に向けて、以下の施策を実施してまいります。

- ・他社との差別化を図るため、主力ソリューションの品揃えを増やすとともに、可視化・マイグレーションビジネスを中心に、商品力強化のための投資を積極的に行います。
- ・クラウドビジネスのさらなる加速を見据え、顧客に提案ができるクラウドサービス技術者の育成を強化いたします。
- ・PMO(プロジェクトマネジメントオフィス)の活動により一層有効なものとするため、解決すべき課題を

開発現場との間で共有し、共に問題解決にあたります。また、上流工程の徹底チェックを行うことで、品質向上とプロジェクト損失の抑制を図ります。

- ・経営の意思決定とその執行のスピードを重視し、自社の強みを発揮できるビジネス領域をすばやく見極め、経営資源の配分を柔軟に行ってまいります。
- ・全ての社員がより長く活き活きと働ける会社となるために、人事制度改革と働き方改革を継続し、社員が働きやすくなるような環境改善に取り組みます。
- ・自然災害対策に加えパンデミックを想定したBCR（事業継続計画）を検討・策定するとともに、オフィス環境の見直しや必要物資の備蓄の強化を行ってまいります。
- ・NCS&Aグループ各社の事業シナジーの追求、コスト構造改革を進め、グループ経営の総合力を高めます。

- Q** ■ 2021年3月期の業績見通しについて聞かせてください。
- A** ■ 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、現時点では未定とさせていただきます。

当社グループは、来期は中期経営計画（2018年度～2020年度）の最終年度として、これまでに引き続き「主力ソリューションの商品力強化」及び「営業力の強化」を両輪とした「トップライン（売上）の拡大」に取り組み、数値目標（売上、営業利益）の達成を目指す計画としておりました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出の自粛やいわゆる「3密」の回避

などにより、当社グループにおきましても足元の営業活動及び生産活動に少なからぬ影響が出始めております。また、この状況が長期化した場合、国内景気が大きく減速し、当社グループの主要取引先であるホテル・外食業や製造・流通業等においてIT投資を見合わせるなど、当社グループの業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。この状況の収束時期やその後の経済状況を見通すことが現時点では難しく、業績への影響規模についても予想することは現時点では困難であると判断いたしました。

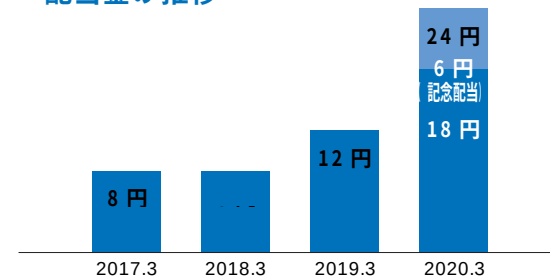
つきましては、2021年3月期の連結業績予想は、現時点では未定とさせていただきます。今後、業績予想の算出が合理的に可能となった時点で、速やかに公表いたします。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値とは異なる結果となる可能性があります。



配当金の推移

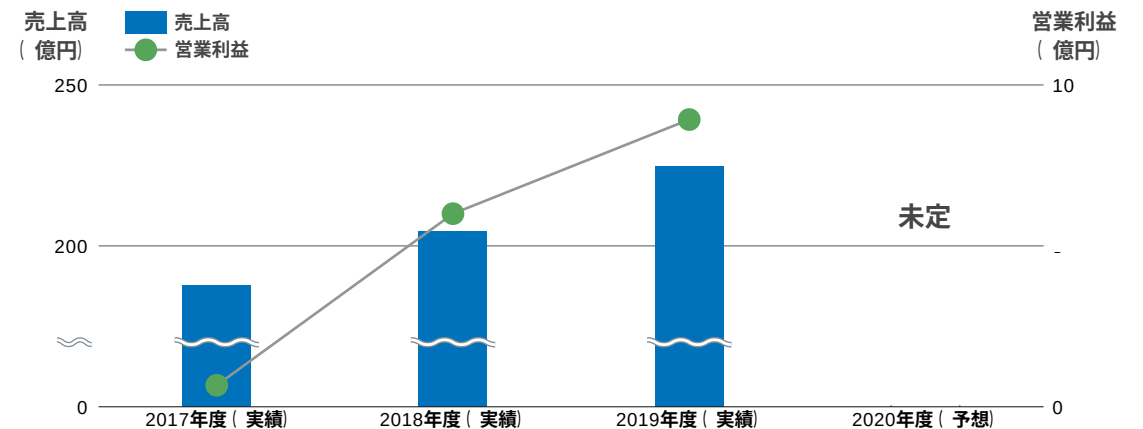


中期経営計画の進捗



中期経営計画2年目の2019年度は、全社一丸となって業績向上に努めた結果、売上高224億円、営業利益8億円となり、当初の業績予想値（売上高207億円、営業利益7億円）を上回ることができました。

最終年度（2020年度）の数値目標につきましては前述のとおり、現時点では未定とさせていただきます。



■ビジネスチャンスは、日常の何気ない商談の中に眠っていた!! 音声データ変換ツール **Ai PLANET-VoiceConvert** 登場!!

NCS&Aでは、これまでに培ったAI技術の知見を活用して、音声データを再利用可能な有効データに加工する音声情報の見える化に取り組んでいます。

「毎日のように繰り返される商談やミーティング、多くの会話が単純な情報伝達手段になっていませんか?」その会話の中に、新たな製品アイデアや、ビジネスチャンスが眠っているかもしれません。

〈 **Ai PLANET-VoiceConvert** (アイプラネット・ボイスコンバート) 〉は、「**会話を見える化**」「**会話をデータ化**」する、**AI技術**を活用した音声データ変換ツールです。

今まで、ある人の貴重な知識や経験は、会話として、人から人へ空気のように漂い流れていくものでした。

〈 Ai PLANET-VoiceConvert 〉は、その貴重な知識や経験を会話からデータに変換し、再利用できるものにします。データ化した会話は、報告書の文書作成に留まらず、蓄積・データベース化することで、「経営を成功に導くデータ分析」や「AI技術との融合」が可能となります。

“ビジネスチャンスを逃して欲しくない”

そんな思いから、〈 Ai PLANET-VoiceConvert 〉は生まれました。

会話を、会議を、見える化。全ての「会話」をデータ化し、共有・蓄積します。



※変換エンジンには、IBM Watsonの音声認識機能 (Speech to Text) を利用しています。

※IBM Watsonは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。

■環境保全活動に取り組んでいます!!

●2019年11月、「大阪マラソン」(12/1日)の開催を前に展開された大阪市主催の「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加しました。ランナーや観客を美しい街で迎えようとの趣旨のもと、毎年、清掃活動を行っています。マラソンコースになっている大阪城公園と、大阪オフィス周辺の清掃活動を早朝に実施しました。



●2019年、「江東区アダプトプログラム(こうとうまち美化応援隊)」に参加して、東京オフィスのある江東区豊洲地区の清掃活動を継続して行っています。



- ・普段通勤で使用する歩道やビル周りを綺麗にすることで、社員が気持ちよく出社できるようにする
- ・当社のお客様に気持ちよく来社していただく
- ・上場企業として地域社会に貢献することを目的に、今後も地域に根付いた環境活動に取り組んでいきます。

■運動で健康経営を!! ～健康増進の取り組み～



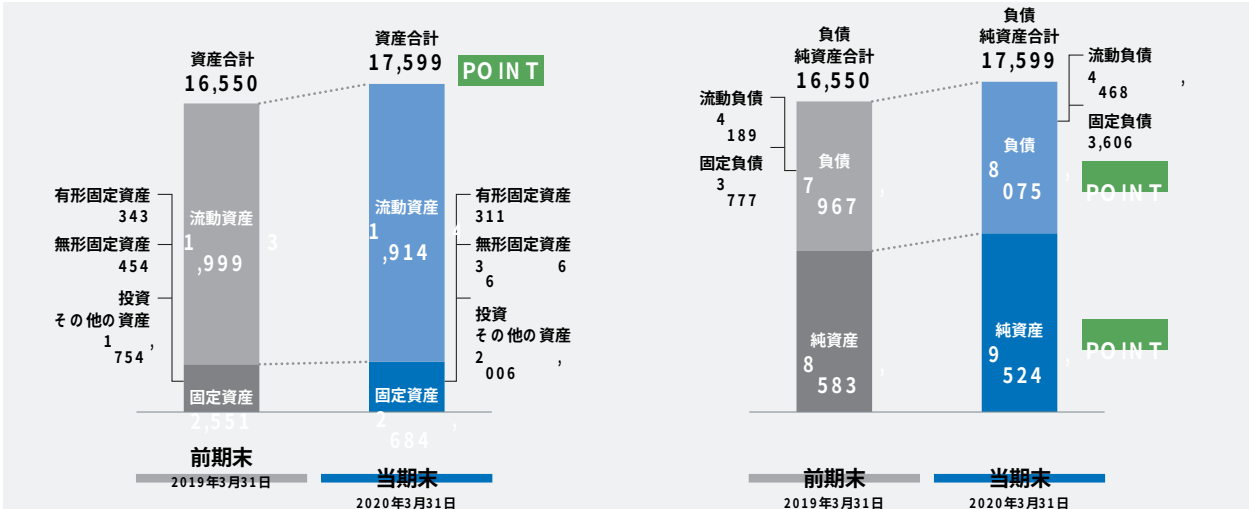
NCS&Aでは、「健康経営」の一環として、スマートフォンとスマートバンドを活用した健康増進に取り組んでいます。

IoTやクラウドなどの技術を組み合わせた「WeRUN健康増進サービス」を導入することにより、社員間で歩数の情報を共有し、社員が楽しみながら健康管理を行うことができる環境を提供しています。

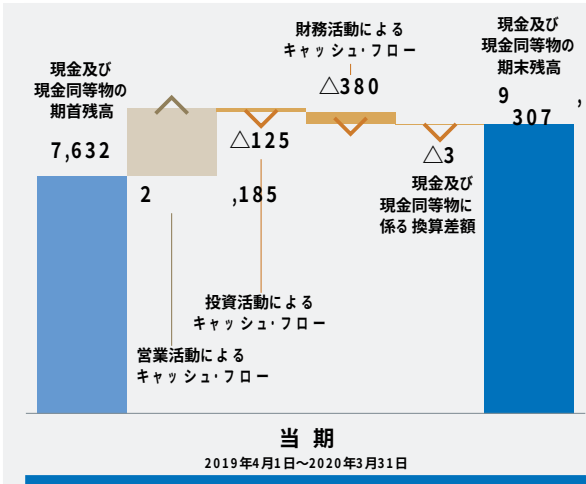
同時に各種イベントを開催して、ゲーム感覚で楽しむことによって、社員間のコミュニケーションも深めることを目的としています。

※ WeRUN健康増進サービスは、株式会社シングが運営するサービスです。

連結貸借対照表 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円) POINT



POINT

資産 売上高の増加にともない現金及び預金が大きく増加したことや、繰延税金資産の追加計上を行ったことなどにより、総資産は10億48百万円増加しました。

負債 未払金や賞与引当金が増加したことなどにより、負債は1億8百万円増加しました。

純資産 親会社株主に帰属する当期純利益の計上により、利益剰余金が増加したことなどにより、純資産は9億40百万円増加しました。

キャッシュ・フロー 営業活動によるキャッシュ・フローで税金等調整前当期純利益を計上し、回収促進により売上債権が減少したことなどにより、16億75百万円増加しました。

会社概要 (2020年3月31日現在)

商号 NCS&A株式会社 英文表記: NCS&A CO., LTD.)
設立 1966年9月21日
資本金 37億7,510万円
従業員数 1,348名 (連結)
事業所 ■ 本社 〒540-6316 大阪市中央区城見1丁目3番7号
■ 東京本社 〒135-0061 東京都江東区豊洲5丁目6番36号
■ 名古屋支社 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号
子会社 ■ エブリ株式会社
■ NCSサポート&サービス株式会社
■ 株式会社フューチャー・コミュニケーションズ
■ 恩愛軟件 (上海) 有限公司

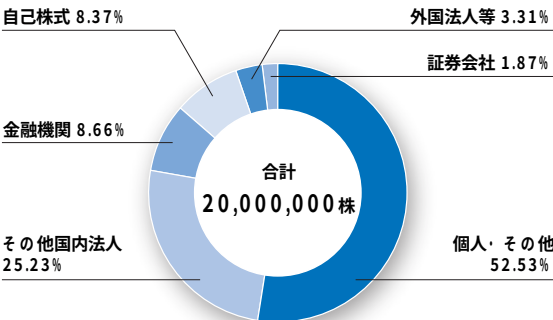
役員 (2020年3月31日現在)

取締役
代表取締役会長 松木 謙吾
代表取締役社長 辻 隆博
取締役執行役員専務 山口 満之
取締役執行役員常務 河上 正
社外取締役 重松 孝司
社外取締役 大森 京太
監査役
監査役 山下 政司
社外監査役 大西 寛文
社外監査役 吉川 興治
執行役員
執行役員常務 木下 幸夫
執行役員常務 成田 昌浩
執行役員常務 小林 裕明
執行役員常務 山本 貴子
執行役員 七野 広高
執行役員 小崎 正己
執行役員 剛野 政弘
執行役員 森本 豊

株式の概況 (2020年3月31日現在)

発行可能株式総数 60,000,000株
発行済株式の総数 20,000,000株
株主数 3,314名

所有者別株式数分布



大株主 上位10名)

株主名	持株数 千株	持株比率 %
株式会社ZEN	1,851	10.10
日本電気株式会社	1,605	8.75
明治安田生命保険相互会社	1,061	5.79
丸山 幸男	994	5.42
NCS&A 従業員持株会	633	3.45
小路口 謙治	433	2.36
アイ・システム株式会社	400	2.18
株式会社クリナム	398	2.17
梶川 融	397	2.17
日本金銭機械株式会社	381	2.07

(注) 当社は自己株式1,674千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
持株比率は自己株式を控除して計算しております。